

## 院外処方せんに表示される検査値について

項目	名称	基準値(男性)	基準値(女性)	単位	内容
<b>WBC</b>	白血球数	3.3～8.6	3.3～8.6	$\times 10^3 / \mu\text{L}$	細菌性感染症、炎症等で増加します。血液疾患では増加または減少します。
<b>Neutro</b>	好中球比率	42～67	42～67	%	同上
<b>Hb</b>	ヘモグロビン(血色素)値	13.7～16.8	11.6～14.8	g/dL	100ミリリットル中のヘモグロビンの量を示します。血液が赤いのはヘモグロビンによるもので、種々の貧血で低値を示します。
<b>PLT</b>	血小板数	15.8～34.8	15.8～34.8	$\times 10^4 / \mu\text{L}$	出血を止めるための重要な働きを持ちます。減少すると出血しやすくなります。
<b>T-Bil</b>	総ビリルビン	0.4～1.5	0.4～1.5	mg/dL	肝・胆道系疾患、溶血性疾患等で増加し、異常に増加した状態を黄疸といいます。
<b>AST</b>	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	13～30	13～30	U/L	肝臓、心臓、骨格筋などに多く含まれる酵素で、肝炎や脂肪肝、心筋梗塞等で上昇します。
<b>ALT</b>	アラニンアミノトランスフェラーゼ	10～42	7～23	U/L	肝臓に最も多く含まれる酵素で、肝炎、脂肪肝等で上昇します。
<b><math>\gamma</math>-GT</b>	$\gamma$ グルタミントランスペプチダーゼ	13～64	9～32	U/L	常習飲酒、アルコール性肝障害、肝、胆道系疾患等で上昇します。
<b>CK</b>	クレアチンキナーゼ	59～248	41～153	U/L	骨格筋、心筋に含まれる酵素で心疾患や骨格筋疾患、外傷、運動後等で高値になります。
<b>K</b>	血清カリウム値	3.6～4.8	3.6～4.8	mmol/L	下痢、嘔吐、火傷などで低値になり、カリウムの摂取過剰、腎不全、採血時の溶血等で高値になります。
<b>Ca</b>	血清カルシウム値	8.8～10.1	8.8～10.1	mg/dL	副甲状腺機能亢進症などで高値になり、副甲状腺機能低下症、ビタミンD欠乏症、腎不全などで低値になります。
<b>UA</b>	尿酸	3.6～7.0	2.3～7.0	mg/dL	プリン体の最終代謝産物であり、痛風や高脂血症等で高値を示します。
<b>CRE</b>	クレアチニン	0.65～1.07	0.46～0.79	mg/dL	腎臓でのろ過機能の指標となり、腎不全、急性糸球体腎炎、尿毒症などで高値を示します。
<b>CRP</b>	C反応たんぱく	0.00～0.14	0.00～0.14	mg/dL	感染症、心筋梗塞などの炎症時に陽性になります。
<b>PT-INR</b>	プロトロンビン時間(国際標準値)	(1.6～2.6)	(1.6～2.6)	—	血液の凝固能を示す検査値です。( )内の数値は、治療域の目安です。
<b>eGFR</b>	イー・ジーエフアール(推算糸球体ろ過量)	90 <	90 <	mL/分/1.73m <sup>2</sup>	血清クレアチニン値と年齢・性別などから算出された腎機能の指標です。腎機能の低下に伴い、低値を示します。
<b>HbA1c (NGSP)</b>	ヘモグロビン・エイワンシー(国際標準値)	4.6～6.2	4.6～6.2	%	ヘモグロビンにブドウ糖が結合したもので、1～2ヶ月前の血糖値を反映します。糖尿病などで高値を示し、貧血などで低値を示します。
<b>TC</b>	総コレステロール	128～149	128～149	mg/dL	細胞膜の構成脂質やステロイドホルモンの原料として重要な物質です。高値になると動脈硬化を起こしやすくなります。
<b>TG</b>	中性脂肪	30～149	30～149	mg/dL	肥満や糖尿病、糖質やアルコールの過剰摂取、食後の採血などで増加します。
<b>LDL-C</b>	低比重リポ蛋白コレステロール	60～139	60～139	mg/dL	HDL-Cとは逆に動脈硬化の危険因子となる悪玉コレステロールです。